



どの方も、自分の目標に向けて綿密な計画を練っており、実際にそれを体現させていました。

どのような道を通るにせよ、「自分はこれを目指す」という指標があることが大事なのだ、という印象を受けました。

講演会は「就職活動マナー講座」という題名でしたが、話して頂いた内容は、就職活動だけでなく社会人になっても生かすことができるもの

ばかりでした。

女性の私にとって、スカートの選び方や口紅の色の選び方、眉や額の重要性という話は、特に印象に残りました。

また「安全ピンを持ち歩くとスカートがはだけたときに役立つ」というアドバイスは一生使えると思います。

新しく知ったことも多くあり、ま



たネットで調べた不確かなマナーに関する情報について、知識を改めさせられました。大学を卒業して社会に出る前に、マナーに関して知る機会が与えられて本当に良かったと思います。

男性の立場として

女子学生と男子学生とは同じ就職活動といえども、意識しなくてはならないことに関して、だいぶ異なっていることに気づいた。

電話やメールのマナーは男女共通で必要であるが、男性では意識しないであろう女性独自の問題がある。

まず1つは化粧である。女性の美しさは就職活動でも武器にできるが、だからといっていつも通りの化粧ではダメ。

お洒落しゅれつと身だしなみの違いをご存じだろうか。お洒落とは「自分のた

めに着飾る自己満足」であり、身だしなみとは「相手に対するおもてなし」という違いがある。

つまり、「自己満足」ではなく企業や採用担当者に対する「おもてなし」を表現するような化粧でなくてはならないのだ。

そして髪形である。現在では多様化しているが、平安時代から黒く長い髪は女性の命と言われている。だからといってそのまま就職活動に臨めるわけではない。

長くて美しい髪を持つ女性が忘れてはならないことが、就職活動では「お辞儀」を多用するということだ。



新堀友真 (経済学部3年)

お辞儀をする度に顔が髪の毛に覆われてしまうなんてことにならないよう、長い髪を生かす結び方などにコツが必要なのである。

その他にも様々あるが、不安な方は一度このような講座を受けてみることをお勧めする。

女性の社会進出について

私はゼミの活動で「女性の社会進出」に関する現状や課題などを研究しており、女子学生の皆さんが積極的に社会に進出し、働く女性のパイオニアとして活躍してほしいと思っている。

少子高齢化の中、人手が不足し、女性の社会進出が期待されている一

方で、男性の家事・育児参加時間が先進国の中では最低で、女性に負担が集中していることや、女性特有の出産に関する企業側の理解など、まだまだ課題は山積している。

しかし、企業側も今まで男性中心で行って来てしまったからこそ、働く女性への対応が分からないという

面もあるかもしれない。そういう意味では、「女性の社会進出」「働き方改革」という流れの中にいる私たち学生がこれから社会に出て、男女問わず働きやすい環境を作っていく担い手になる必要がある。

今回の講演は、そんなことを考えるきっかけになるものだった。